

Title	小児歯科系「保護者による後磨きは何歳まで行えばよいのでしょうか？」
Author(s)	町田, 幸雄
Journal	歯科学報, 109(3): 316-317
URL	http://hdl.handle.net/10130/1676
Right	

臨床のヒント

Q&A 9

小児歯科系

Q & A コーナーを新設しました。まず東京歯科大学の3病院の臨床研修歯科医から寄せられた質問に対する回答です。回答は本学3施設の専門家をお願い致します。内容によっては基礎や臨床、あるいは歯科や医科と複数の回答者に依頼する場合があります。毎号掲載いたしますので、会員の皆様もご質問がございましたら、ぜひ東京歯科大学学会までeメールかファックスで依頼していただきたいと存じます。必ずご期待に添えることと思います。今号は小児歯科系の保護者による後磨きに関する質問です。

Question

保護者による後磨きは何歳まで行えばよいのでしょうか？

Answer

保護者が小児に対して何時まで後磨きをすべきかの決定方法については今まで色々なことが言われてきた。例えば小児が刷掃に対して興味を持つようになるまでの年齢とか、神経筋機能の成熟するまでとか、あるいは感覚機能が発達するまでの年齢とか色々な方法が挙げられてきたが、いずれの方法も適確な年齢を定めることは難しい。

そこで上下顎歯列を図1に示すように乳歯列期では20分割し、混合歯列期と永久歯列期については28分割し、これらの部位のすべてが刷掃できるまでの年齢を保護者が刷掃すべき年齢として調査した。

調査対象は、乳歯列期あるいは混合歯列期の2歳4カ月から11歳4カ月までの小児56名で、4カ月間隔に年3回、最低9回、3年以上、最高9年間にわたって刷掃指導を行った小児である。調査対象は、刷掃指導開始年齢が2歳から7歳までと8歳から11歳までの2つのグループに大別した。そして最終観察時まで連続して全部位に歯ブラシを到達することができた最初の年齢を完全実施年齢とし、この年齢までを保護者が後磨きをすべき年齢とした。

表1に示すように2歳から7歳の間に刷掃指導を行った小児の完全実施年齢は8歳と9歳が多かった

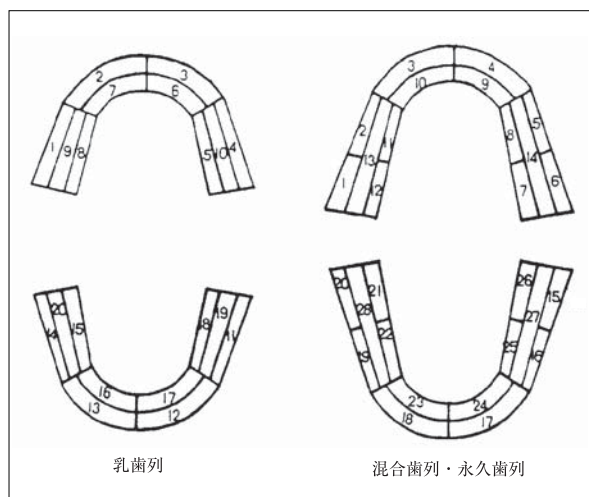


図1 刷掃順序と部位

表1 指導開始年齢別にみた完全実施年齢

年齢	完全実施年齢							合計	
	7	8	9	10	11	12	13		14
2	1								1
3	2		2						4
4	1	2	3						6
5	1	1	2	1	4	1			10
6	1	4	1	2	1				9
7		5				2			7
8			1	1	2	2	2	2	10
9				1	2	1		1	5
10						2	1		3
11								1	1
合計	6	12	9	5	9	8	3	4	56

ことから、保護者による後磨きは7歳から8歳まで行うべきであると考えます。

これに対し8歳以上から刷掃指導を開始した小児の完全実施年齢は、バラツキが多く何歳まで保護者が後磨をすべきかを決定することは困難であった。しかし、いずれの年齢から刷掃指導を開始しても1年以内に完全実施年齢に達した小児はいなかったことから8歳以上から指導を開始した小児でも最低1年以上の保護者による後磨が必要であると思われる。しかしこのような年齢になってからの後磨きに対して協力的になるかどうかは極めて疑問である。従って刷掃指導の開始は、低年齢児からの実施が得策と考える。とはいうものの表1から明らかなように、いずれの年齢から指導を開始しても完全実施年

齢に達するにはかなりのバラツキがある。そこで臨床の実際においては各小児に指導を行い、各自の完全実施年齢に達するまでを後磨きの年齢とすることが望ましいと考える。

文 献

- 1) 町田幸雄：低年齢刷掃指導のポイント，デンタルダイヤモンド，15(10)，46～49，1990.
- 2) Yukio Machida, Hiroshi Sekiguchi and Masashi Yakushiji: Determining the optimal age up to which parents should brush children's teeth, Pediatric Dental Journal, 18 (1), 24～26, 2008.

Answer：町田幸雄

東京歯科大学名誉教授